

お米インタビュー

日吉小学校 二年 土屋 穂波

「今日のごはんはごましおで。」

ぼくは、ほくほくのたきたてのごはんはんに、ごましおをかけてたべるのが大好き。ごはんのあまみとごましおのしょっぱさが口の中でまぎって、元気がもりもりわいてくる。

ぼくのつうがくろは、だいたい二キロの田んぼ道。五月に小さかったいねも、夏休の前はぼくのこしよりも大きくなる。このふうけ

いを見ると、「今年もおいしいお米がでけるんだな」と、わくわくする。

もちろん、ぼくのうちでもお米を作っている。そこで、つくっているおじいちゃん、おばあちゃんにインタビューした。

「おばあちゃん、お米をつくって大へんなことは何？」

「天氣に左右されることだよ。とくにさいきんはたいへんだね。」

「お米をつくっていてうれしいことは。」

「たべてもらって、たとき、おいしいって言  
ってもらったよ。」  
「おじいちゃん、しょうかくするときはどん  
な気持ち？」

「今年もしょうかくできてうれしいな。わく  
わくするよ。」  
インタビュアー：「お米をつくっている  
人たちの気持ちも分かった。ぼくはさらにお  
米が好きになった。」

しかし、こまづていることもたくさんある  
そうだ。とくに、ちきゅうおんだんかや台風  
などのさいがいだ。むかしにくらべて、気お  
んが高かったり、どしやぶりの雨が多かっ  
たり、米づくりはむずかしくなっているらしい。  
ぼくはこれからもごはんをのこさず、おい  
しくたべ、元気にすごしていきたい。そして、  
多くの人にお米のおいしさを知ってもらいた  
い。のうかのみなさん、まい年おいしいお米  
をつくって、くれてありがとう。今年もたのし  
みです。